

2011年9月30日

各位

オリックス不動産株式会社

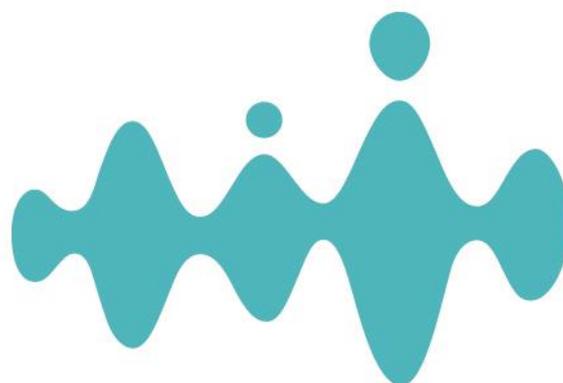
『京都水族館』館長およびロゴマーク決定のお知らせ

オリックス不動産株式会社(本社:東京都港区、社長:山谷 佳之、以下「オリックス不動産」)は、2012年春開業予定の『京都水族館』(京都市下京区観喜寺町、梅小路公園内)の館長およびロゴマークを決定しましたのでお知らせします。

館長には、榊原 茂(さかきばら しげる)が就任します。榊原 茂は、1966年に日本大学農獣医学部水産学科を卒業後、長年にわたり水族館運営に携わり、高いマネジメント能力を発揮してきました。マンボウの飼育システムを確立し、国内の飼育最長日数記録を更新するなど、魚類・海獣類の飼育・展示に関する豊富な経験、幅広い知識を有しています。また、「鴨川シーワールド」(千葉県鴨川市)、「海遊館」(大阪府大阪市)、「海響館」(山口県下関市)では、開業準備から運営に携わり、新しい水族館の立ち上げに貢献してきた実績があります。

『京都水族館』では、本年7月より榊原 茂を顧問として採用し、開業準備に際しての展示生物の検討や飼育技術、施設運営方法などにおいて幅広い助言を得てきました。『京都水族館』を魅力溢れる水族館として適切に運営していくうえで、同氏の実験・知識が大きな役割を果たすものと判断し、このたび館長に決定しました。

また、『京都水族館』のコンセプトを象徴的に伝えるコミュニケーションマークとしてロゴマークを決定しました。『京都水族館』は、“水と共につながるいのち”をコンセプトに、一滴のしずくが、やがて川になり、海に注ぎ、雲となり、ふたたび里山に戻ってくる水のつながりの中で、生き物がかけがえのない命を営々とつないでいることを伝え、その美しさを感じ、大切さを学び、水辺の体験までも楽しめる水族館を目指しています。今回決定したロゴマークは、“水と共につながるいのち”を印象的にデザインすると同時に、水族館で生まれる楽しさや驚きを表現しました。



KYOTO AQUARIUM

京都水族館

Press Release



『京都水族館』は、日本初(*1)の内陸型大規模水族館として、子どもたちをはじめ、幅広い年齢層へ環境学習の場を提供するなど、京都の環境を守る活動の情報発信や、水の豊かな都が育んだ文化の紹介を行ってまいります。オリックス不動産は、引き続き、地域の皆さまに親しまれる『京都水族館』の運営を目指し、2012年春に向けて開業準備を進めてまいります。

(*1)オリックス不動産調べ。内陸型大規模水族館を沿岸部まで50km、延床面積10,000㎡以上と定義。

以上

【本件に関するお問い合わせ先】

オリックス不動産株式会社 社長室 田海・永井
TEL:03-5574-4009

略 歴

榊原 茂 (1944年3月、静岡県生まれ)



- 1966年3月 日本大学 農獣医学部 水産学科卒
- 1966年4月 株式会社よみうりランド入社 海水水族館勤務
- 1979年4月 鴨川シーワールド副館長
- 1981年5月 第23次南極地観測隊夏隊へ日本動物園水族館協会の
オブザーバー隊員として参加
- 1986年5月 名古屋港水族館基本設計調査検討委員会専門部会委員
- 1989年6月 大阪ウォーターフロント開発株式会社(出向)
海遊館事業本部 飼育展示部長
- 1993年4月 鴨川シーワールド副館長に復職
- 1998年7月 新下関水族館開設準備専門委員 委嘱
- 2001年4月 財団法人下関海洋科学アカデミー専務理事 海響館館長
日本動物園水族館協会理事
下関人工島水生生物協調技術検討専門委員
- 2003年4月 宮島水族館改修基本計画策定検討委員 委嘱
- 2003年5月 オフィス榊原 設立(コンサルタント業務・アドバイザー業務)
- 2003年5月 日本ペット&アニマル専門学校講師
(講座:海洋哺乳類、水族館・動物園研究、ドルフィントレーナー)

実 績

- ・ マンボウの飼育システムの確立、国内の飼育最長日数記録樹立
- ・ スルメイカ、ヤリイカの飼育システムの確立
- ・ アンコウの飼育システムの確立
- ・ 南極の生物(魚類、無脊椎)の飼育システム開発と技術の確立
- ・ ジンバイザメを始め大型サメ類の輸送技術の確立

著 書

「水族館をまるごと楽しむ」(新風舎 2006年4月発行、共著)